

2019年日本地理学会秋季学術大会

今年の日本地理学会秋季学術大会は9月21日（土）から9月23日（月）まで新潟大学の五十嵐キャンパスで開催された。今回の大会では、一般の口頭発表で自然系・人文系を合わせて90を超える報告があったほか、シンポジウム（3件）、公開講座（1件）、ポスター発表（40以上、数は要旨集掲載分による）などもあり、全体としてかなり盛会であった。人口に関する発表としては、口頭発表のなかで「人口」と題された時間帯に、当研究所の小池司朗・人口構造研究部長らによる東京圏出生者割合に関する研究など、4件の発表が行われた。またそれら以外にも、観光と地方創生、都心部の地域変容などに関連する報告が複数あり、地域人口の研究を行う者にとっては総じて有意義な大会になった。（清水昌人 記）

オランダ経済政策分析局レクチャー

2019年9月24日に、オランダ経済政策分析局（CPB Netherlands Bureau for Economic Policy Analysis）から若手研究者18名が来所され、所内第4会議室において人口と社会保障についてのレクチャーを行った。午後2時から6時までの長丁場となったが、質疑応答も活発に行われるなど関心の高さがうかがわれた。なお、このレクチャーは社人研プロジェクト「長寿革命に係る人口学的観点からの総合的研究」の一環として行われた。

当日のプログラムは以下のとおり。

「Opening Remarks」 泉田信行・社会保障応用分析研究部長

「Overview of population ageing in Japan」 林玲子・国際関係部長

「Mortality decline and longevity in Japan」 別府志海・情報調査分析部室長

「Pension policy challenges for Japan: an overview」 中田大悟・創価大学経済学部准教授

「Poverty in Japan」 渡辺久里子・企画部研究員

「Population health in Japan」 林玲子・国際関係部長

「Policy changes in health and LTC system in Japan」 菊池潤・社会保障基礎理論研究部室長

「Closing Remarks」 林玲子・国際関係部長

（別府志海 記）

地域生命表に関する国際ワークショップ（International Workshop on Subnational Life Tables）における研究報告

死亡データベースプロジェクト（Human Mortality Database project, HMD）は、国際比較及び地域比較が可能な死亡に関する精度の高いデータを収集することを通じて、先進国における死力転換のパターンと要因及びその帰結を解明することを目指すものである。HMDはカリフォルニア大学バークレー校とドイツ・マックスプランク研究所によって2000年に開始されており、既に20年近い歴史がある。日本からは石井太氏（前人口動向部長）も参画しており、当研究所もHMDの黎明期から積極的に国際的な知の蓄積に貢献してきた。また、当研究所においては、HMDと整合性をもち、わが国の生命表を死亡研究に最適化して総合的に再編した死亡データベース「日本版死亡データベース」を、人口問題プロジェクト研究「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的